

⑳ 酒々井本佐倉城跡周辺

歴史、文化、里山と中世の城跡

【概要】本佐倉城は後期千葉氏の居城であり、15～16世紀に下総の首府として栄えた。空堀などの遺構がよく保存され、平成10年に国史跡に指定された。林床の植生が豊かな里山林では、四季を通じて多くの草花が見られる。周辺の谷津には、多様な水辺の生物が生息し、近くの斜面の露頭では、関東ローム層や約20万年前の上岩橋貝層が観察できる。

【森林の特徴と見所・歴史文化】

谷津田周辺には里山特有の多様な草花・昆虫が見られます。ホタルの里ではゲンジボタルが生育しています。麻賀田神社には風格のあるウラジロガシ、スダジイ、ケヤキの巨木が見られ、本佐倉城跡のセッテイ山にはキンメイモウソウチクの竹林があります。

酒々井町には伊篠白幡遺跡や上岩橋貝層、かんかんむろ遺跡などから約2万4000年前頃から人類が居住していたとされています。室町時代から戦国時代には千葉氏の本拠地、本佐倉城が存在し、北総地域の政治的中心地であり、また印旛沼の水運を利用した水上交通管制の要衝でもありました。江戸時代に入ると佐倉城築城に伴う本佐倉城廃城により政治的意義は失われましたが、成田山詣や芝山仁王尊詣の宿場町として栄えました。旧成田街道沿には酒々井宿の古い町並みが残っています。また、当時の陸上交通手段である馬を扱う幕府直轄の野馬会所（馬市場）が存在し、水上交通の便も手伝い物資の集散地となり、また生産業では農業や酒造業が盛んでした。

酒々井本佐倉城跡周辺



【コース紹介】

京成酒々井駅－①築山－②麻賀田神社－③酒の井－肥前坂－里田－④上岩橋貝層－⑤ホタルの里－根古谷の館－双体道祖神－本佐倉城跡（東山馬場－⑥城山－奥の山－⑦セッテイ山－東光寺ビヨウ－勝嵐寺－大佐倉駅



①築山からの眺望

京成酒々井駅より旧成田街道を右折すると間もなく築山があり、丘の上からは印旛沼方面の展望が開けます。条件が良ければ筑波山も遠望できます。干拓される前にはすぐ下まで印旛沼が広がっていました。



②麻賀田神社

しばらく緩やかな上りを進むと麻賀田神社です。この神社は印旛沼南岸のみに点在する印旛郡内唯一の式内社で、境内にはウラジロガシ、スダジイ、ケヤキ、スギなどの大木が見られます。



③酒の井

車に注意しながらガードレールの無い歩道を100m程進んで右に折れるとすぐ孝行息子の伝説がある酒の井です。住宅街の狭い道を酒々井小学校方面へ進み、急な肥前坂を下ると里田に出ます。ここからは谷津田の周囲の草花の多い道となります。途中には上岩橋貝層もあり、車の通行も少なくのんびり散策できます。

地元のボランティアが整備しているホタルの里を過ぎると間もなく根古谷の館があり、田んぼの向こうには小高い本佐倉城址の森が見えます。ここから左手に少し行くと小さな双体道祖神が祭られています。



⑥城山からの里山風景

田を横切って右手に回り込むと本佐倉城の東山馬場があり、小さな駐車スペースとトイレがあります。左へ回り込みながら急な上り坂をたどると平坦な城山に出ます。ここが城の中心で千葉氏の主殿や会所があった場所です。ここからの眺望は良く、のどかな里山風景が楽しめます。

少し戻って南側へ上ると奥の山です。北へ向かい東山馬場手前を左に折れると東山虎口です。虎口を抜けて左手へ進むとセッテイ山で、深い空堀が残っています。キンメイモウソウチクの竹林をたどってセッテイ山を越えると城の北側に広がる東光寺ビヨウに出ます。京成線のガードをくぐり勝胤寺の脇を抜けて線路沿いに進むとゴールの大佐倉駅です。

【植生】

谷津田周辺には里山特有の多様な草花・昆虫が見られます。ホタルの里ではゲンジボタルが生育しています。麻賀田神社には風格のあるウラジロガシ、スダジイ、ケヤキの巨木が見られ、本佐倉城跡のセッテイ山にはキンメイモウソウチクの竹林があります。



コースで見られる主な植物等

【木本類】

シラカシ、ウラジロガシ、スダジイ、ケヤキ、タブノキ、ヒサカキ、スギ、イヌシデ、コクサギ、シロダモ、ウワミズザクラ、キンメイモウソウチクほか

【草本類・シダ類】

ヒメスミレ、タチツボスミレ、トウダイグサ、ハナニラ、ノビル、ジロボウエンゴサク、ウラシマソウ、ホトケノザ、タコノアシ、ショカツサイ、アマナ、カキドオシ、オオオナモミ、ヤブカンゾウ、ツルカノコソウ、キュウリグサ、ムラサキサギゴケ、ハハコグサ、タネツケバナ。ハコベ、ノゲシ、オニノゲシ、カントウタンポポ、ナズナ、カタバミ、クサノオウ、カラスノエンドウ、ムラサキケマン、チゴユリ、ホウチャクソウほか